

026

After Century

Art Campus

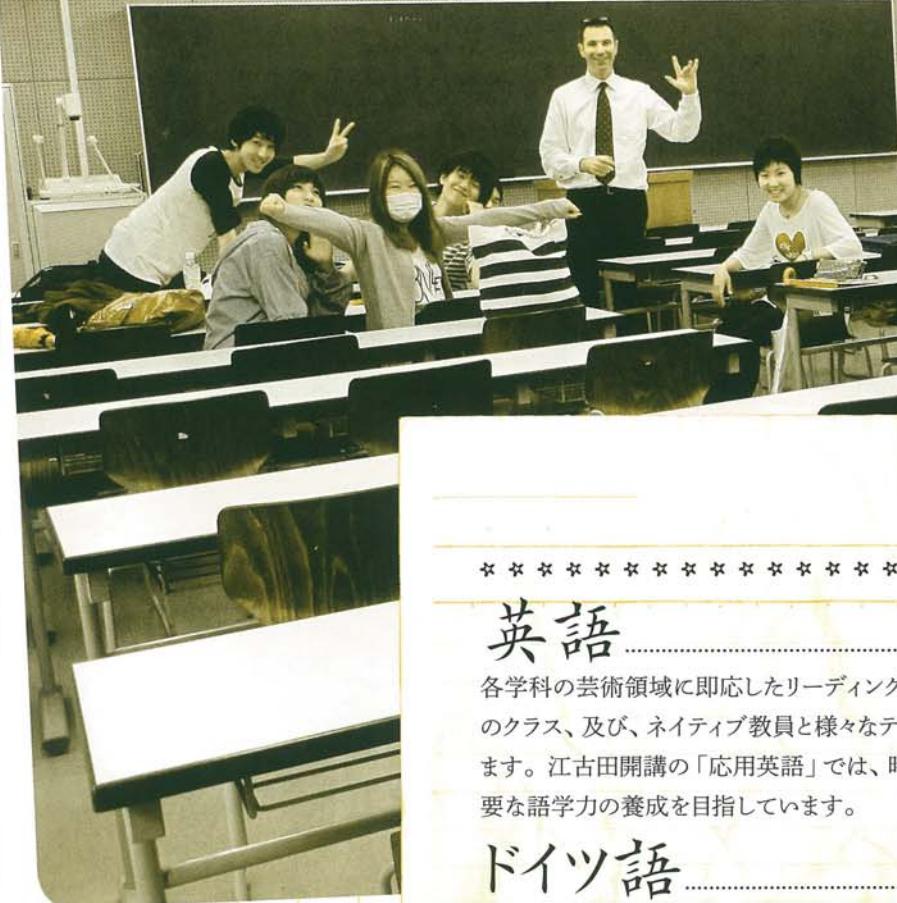
Photography  
Cinema  
Fine Arts  
Music  
Literary Arts  
Theatre  
Broadcasting  
Design

OPEN  
CAMPUS

# 芸術教養課程【外国语】の紹介

—芸術系大学で最高の語学教育を目指します—

T O P I C S



## 英語

各学科の芸術領域に即応したリーディングと、使える英語を目指すコミュニケーションのクラス、及び、ネイティブ教員と様々なテーマを英語で学ぶ「gクラス」を設置しています。江古田開講の「応用英語」では、時事英語や検定試験対策など、就職にも必要な語学力の養成を目指しています。

## ドイツ語

日本大学交換留学生試験に吉田岳史君(デザイン学科・3年)が見事合格! 後期から1年間、ベルリン自由大学に留学します。積極的にドイツ語を磨きたい&留学したい1年生対象に、特別なsクラスを設置。江古田の実践ドイツ語も活気に溢れています。

## フランス語

本年度開始の1年生から速習クラス(I<sub>s</sub>)と基礎クラス(I<sub>e</sub>)を設置しました。前者は、将来留学や大学院進学を希望する学生のため、後者は文法理解の基礎からじっくり学びたい諸君のためのものです。江古田では、仮検対応クラス、大学院向け講読クラスに熱気があります。

## イタリア語

選択必修になった今年初年度は、70名前後の登録がありました。所沢の授業は、ペテラン日本人講師と若いネイティブ講師で始まりました。江古田では、初めてイタリア語を始める学生諸君たちで、賑わっています。

## 中国語

選択必修となった今年、所沢の登録者数は大幅に増えました。江古田では中国文化への理解を深めるために文学や歴史や時事的な話題に触れるはもちろん、映像や音楽なども取り入れた多面的な授業を展開しています。

## 日本語

近年は以前には少なかった美術や音楽や文芸学科の留学生も増えています。所沢では講読、作文、聴解、発話等を通して日本語の基礎を学び、江古田では就職や進学を考慮した、より実践的な授業を行っています。



「経験」が次に向かう力になる。

一つひとつ経験を積み重ねる。

そこで得たものを生かして、また新たな経験をする。

学び続けること。夢を追い続けること。

「経験」はすべての力になる。

演劇学科 演出コース 3年

岩澤哲野さん



#### ■父に背中を押され、演劇の道へ

無口で頑固。岩澤哲野は小さい頃から庭師である職人の父親に憧れ、自分も父と同じ仕事を就きたいと思っていた。高校に入ってからもその思いは変わらなかったが、ある日、父親にこう聞かれた。「お前は本当に造園の仕事がしたいのか」と。その言葉は、岩澤の胸に強く響いた。「俺は造園がやりたいのではなくて、親父がやっていることをやりたいだけなのかも知れない」。

自分が本当にやりたいことは何だろう…。そう考えはじめた高校3年生の時、文化祭で芝居を制作する機会があった。演目はキャラメルボックスの『俺たちは志士じゃない』。今振り返ると芝居の真似事のような稚拙なものだったが、この舞台で役者と演出を受け持った岩澤は、クラスの仲間と一つの作品を創りあげる醍醐味を味わい、もっと演劇を学びたいと思うようになった。「父は自分を知っていたから、僕のことを理解し、背中を押してくれたんだと思います」。



演出助手を担当した「舞台総合実習」でのひとこま。舞台は集団芸術。たくさんの仲間が一つになって、一つの舞台を創りあげる。

しかし舞台創造の現場で、直に演劇に触れる中、岩澤は大きな壁に突き当たっていった。「自分は集団芸術を求めて演劇の世界に入りましたが、演劇イコール集団芸術ではないんじゃないかな、自分の選択は果たして正解だったのだろうかという想いに駆られました」。どんなに有能な演出家がいても、いい作品は生まれない。岩澤が考える集団芸術とは、それぞれの分野の人間が責任とプライドを持ち、その上で互いに意見を出し合い、一緒に考えることで生まれるものである。さらには、そこに観客という第三者が加わることで完成するもの。演劇の中に集団芸術はあるか…。その答えを求めて、彼は行動を起こした。「2年の1月に自分のプロデュースユニットを立ち上げました。そして今年の3月、演劇学科の仲間数十人を集め、初めての自主公演をうちました。この団体が自分の未来であり、可能性だったんです」。

#### ■壁を乗り越えたからこそ、見えてきたもの

自ら作・演出を手がけた「かくれんぼ」という作品は、社会に出て間もない男性が“なくしたもののは何だろう”、“大切なものは何だろう”と自らに問いかけるストーリー。壁に突き当たり、その答えを探っていた彼の心情をそのままに表現した作品である。「集団によくある独裁政権的創作、または個人の暴走、他の堕落。それは、単に可能性を狭めるものであり、集団性からかけ離れたもの。もちろんそれぞれの役職にはそれぞれの役割があるので、それは全うしなければなりません。ただ、集団には仲間がいるんです。個より多で創造すること、つまりは他から抽出することで可能性は無限大に広がります。だから僕は拒否するのではなく、かといって鵜呑みにするのでもなく、可能性を追求するような作品創りを心がけました。もちろん全てが上手くいった訳ではありませんが…。ただ、ぶつかり合うことで新たなものが生まれ、可能性もふくらんでくる。この作品創りを通して、自分が求めていた集団芸術は、確かに演劇の中にあるものだと確信することができました」。演劇は奥深く、そう簡単に答えは出ない。しかし自分たちの手で作品を創り、同時にいろいろな劇団の演劇を観てきた岩澤は、『演劇は娯楽』と言い切る。「娯楽であるけれど、その中に舞台ならではの芸術性という深みがなければならないと思います。そのためにどうするか。これから時間をかけて、自分なりの答えを探っていきたいですね」。

日藝に入学した当初は、真似事の演劇しか知らない岩澤だが、2年の間に演劇人として大きく成長したようだ。「夢は、とりあえず自分たちの劇団を持つこと」。そう答える彼の目に、もう迷いはない。



自主公演「かくれんぼ」は、今年の3月に上演。「できれば来年の3月に、2回目の自主公演をうたいたいですね」。次はどんな舞台を見てくれるのか、楽しみである。

● ぶつかり合い、認め合い、共に考える。演劇の新たな可能性は、そこから始まる。

写真学科 3年

小池雄之さん



#### ■銀座 Nikonで初めての個展

小池雄之は2年の1月21日から31日、銀座 Nikon フォトスクエアで写真展を開いた。初の個展となった写真展のテーマは『AHI Night』。昭和42年から休止され、手つかずのままになっている西武鉄道安比奈線を撮りためた8枚の組写真を展示した。まるで時間が止まつたかのように住宅街に横たわる、錆び付いた線路。そして線路のすぐ脇には、人々が生活する『日常』がある。静と動が混在する風景をどう撮るかがいちばんのポイントだった。「個展を開くことを勧めてくれた当時の先生に相談し、アドバイスをいただきながら撮影しました。最終的には、同じレンズで、同じ目線で、星空の夜に撮って統一性を持たせた方が伝わるのではないかといふことになりました」。そのため彼は夜遅く現地を訪れ、測量のよう正確にカメラの位置を定め、フォトレタッチの技術を駆使して仕上がりを調整し、時間と労力をかけて個展に出す写真を仕上げていった。「入学したときから個展を開くことが夢でした。だから手を抜きたくなかったんです」。その甲斐あって、多くの人が訪れた初めての写真展は成功に終わった。



銀座 Nikon フォトスクエアで行われた初の個展「AHI Night」で、住宅街に残された休止線を小池の視点で撮りあげた渾身の組写真を発表。水平、垂直をとり長時間露光による撮影、フォトレタッチによる加工技術…その一枚一枚に、これまで彼が学んできたことのすべてが生きている。

#### ■主観的な写真より、客観的な写真を

個展の被写体に選んだ安比奈線は、小学生の頃、はじめて父親に連れて行ってもらった。「カメラ好きの父の影響で、物心ついた時から鉄道写真を撮っていましたが、なぜか廃線や古いものに興味がありました」。そんな小池が大学に入って被写体として選び、現在も撮り続けているものは、安比奈線のほかに2001年に廃炉となった長崎県の炭坑の島・池島や、埋め立て地として開発が進みながら様々な理由から現在、開発が遅れている福岡のアイランドシティがある。

「日藝に入った当初から、人に共感してもらえる写真を撮りたいと考えていました。写真には主観的なものと客観的なものがありますが、客観的なもの…つまり人の視点から撮った写真の方が人に伝わるのではないかと思い、すべての題材において客観的な視点を大切にしています。客観的な写真で何かを伝えるには、一枚の写真で見せるより、組写真のほうが効果的だと思ふので、池島もアイランドシティもずっと撮り続けています」。



2001年に閉山された長崎県池島。廃坑から10数年経つた今も300人の島民が暮らす島を、今も撮り続けている。

#### ■島民の思いを、一枚の写真で伝えたい

一つの被写体にまっすぐ向き合い、長く撮り続ける。被写体の一つである池島は、通いはじめてかれこれ2年になる。最初に訪れた時、元炭鉱夫だったおじいさんに泊まっていくと言われてから年に何回も足を運び、今では多くの島民の方と顔見知りになった。彼の写真には、伝えようという想いが宿る。それはまさに、そこに住む人の話を聞き、真剣に向き合おうとする姿勢が一枚の写真に現れているのかもしれない。「見る人に思いを伝え、共感してもらうためには、写真を説明するための文章やプレゼンテーション、フォトレタッチなどの技術など、写真以外のものも必要です。日藝に入ってそうした幅広い知識や技術を養えて本当に良かったと思っています」。

彼は日藝にAO入試で入学した。それだけに、誰にも負けたくないという想いがどこかにあるのだろう。人一倍勉強し、人一倍写真への情熱を持っているように思えてならない。「長く撮ることの弊害は何もないのでは、今後も池島を撮り続けてきちんととしたかたちで発表したいですね」。小池と写真とのつきあいも、いつまでも続くことだろう。

#### ○ 小池雄之さんのホームページ

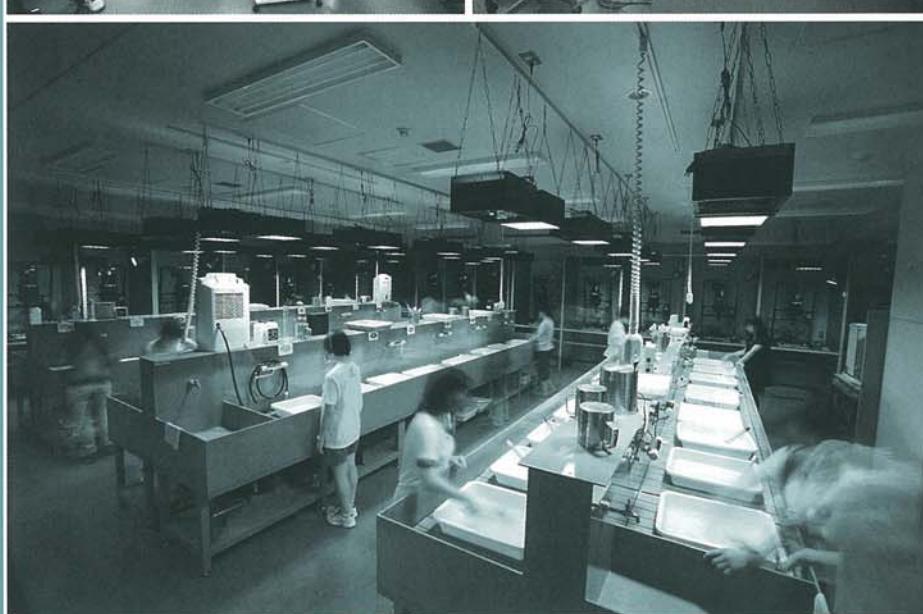
『Innovative photograph』 [http://www.geocities.jp/innovative\\_photograph/](http://www.geocities.jp/innovative_photograph/)



# Photography

写真学科

見て! 聞いて!  
体験しよう!  
写真学科!!  
愉しく写真を感じてみよう。



【映画学科】

Cinema

ここで、昔から  
映画や活動屋が  
生まれ育ってきました。  
映画学科です。



# 海の日はオー

美術学科ではワークショップ、  
進学相談コーナーの他に公開講座を行います。

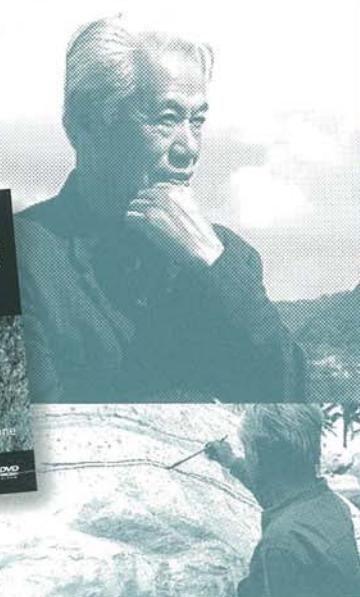
**美** 術学科ではワークショップ、進学相談  
コーナーの他に公開講座を行います。

□ 公開講座

かつてイサム・ノグチのパートナーであり、現在まで石の彫刻や庭を制作し続ける石匠の和泉正敏（1938年生）の作品世界の紹介ビデオの上映と、彫刻と石についての解説を行います。

ビデオ作品「石の詩人 和泉正敏」上映と解説

西棟3階美術学科多目的室 13:00～14:15 (高橋幸次)



絵画、彫刻とも進学相談コーナーは10:00～16:00まで行われており、あわせてアトリエも公開しています。ワークショップは絵画、版画、彫刻と3つの専攻に分かれて行われます。時間をうまく使えば3つのワークショップを受けることも可能です。朝から夕方までどっぷり美術学科に染まって見てはいかがですか。

美術学科

Fine Arts

音楽学科

Music

学楽学科では、専任教員による進学相談コーナーで、入学試験や授業内容、進路など、皆さんの質問に応じます。またコンサートとして「作曲コース作品発表会」「吹奏楽」「室内楽」、公開講座として「作曲家を目指そう!」「音楽療法とは」「音楽の先生になるには」「ピアノ演奏論」、公開演習として「オペラ」、レッスンとして「ワンポイントピアノレッスン」、展示として「卒業作品・卒業論文展示」「情報音楽コース『ギャラリーSWITCH 2012』」、公開ゼミナール「情報音楽コース『トークバトル2012』」など、多彩な企画を用意しています。音楽学科の魅力を楽しみながら体験してください。



## □新生デザイン学科OPEN!

—新しくなったデザイン学科の多様な領域を模擬授業のスタイルでご紹介します。

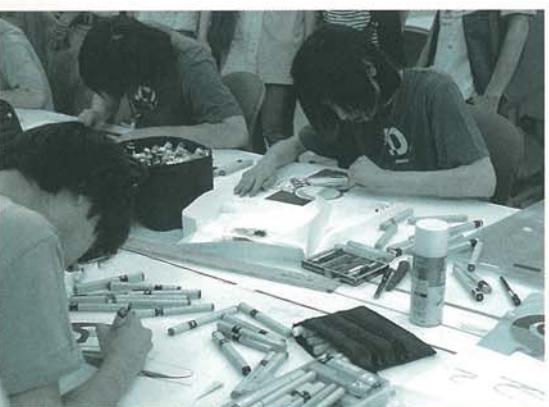
## □前線で活躍中の卒業生アートディレクター、デザイナーによる特別授業!

—実社会のリアルなデザインの現場を学ぶ特別授業に参加できます。

デザイン学科でも授業を担当するアートディレクター・布目幹人氏、トヨタ自動車東京デザイン研究所のデザイナー・浅野翔太氏が特別講師として来校。

## □デザイン学科オープンアトリエ!

—デザイン学科の教室アトリエを広く公開。優秀作品展示、模擬授業、ワークショップなどの参加型企画を通じ、アトリエ、PCルーム、工房など多様な施設を見学できます。アトリエでの専任教員・在校生による個別進学相談、実技試験対策企画なども充実。



# パン キャンパス!

## 体感——Sensationとは?

外部からの刺激によって起こる身体動作から、カラダの中で知覚出来る受容感覚

**演**劇は、観劇・カンゲキ・感激・kangeki……とにかく身体的にも精神的にもシゲキの多い芸術分野です。演劇学科では、民族や時代によって異なる理論や表現を専門的に学ぶことが出来、また講師と8つのコースの学生が互いに刺激を受け合うことで絆が生まれ、そして実践の中で作品が生まれていきます。

その過程の一部を少しでも知って頂けるよう、演劇学科ではオープンキャンパスに際しガイダンスや模擬授業、公開講座を開催します。そこで演劇という芸術をカラダとココロで感じて頂ければ幸いです。

あなたも普段体験することの出来ない授業内容を実際に“体感”してみませんか？

※各「模擬授業」「公開講座」については先着順に「整理券」を配布します。お早めにお越しください。

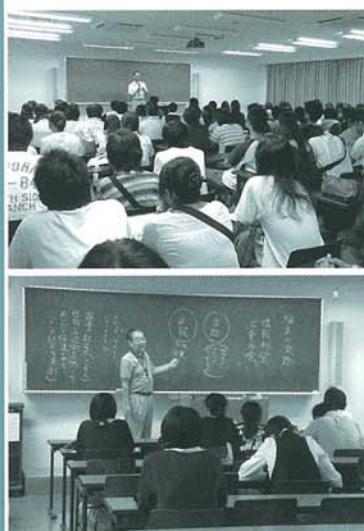


## 編集の方法教えます

(小説の書き方も教えます)

## 文

芸学科では公開授業「編集の実際」(此經啓助先生)、体験講座「パソコンで雑誌を編集してみよう」(谷村順一先生)といった『編集の方法』を中心としたラインナップで受験生の皆さんをお持ちしています。もちろん公開授業「文学の生まれる場所」(稻葉真弓先生)、「引き算のキャラクター造形」(青木敬士先生)では小説の書き方も教えちゃいます。西棟5階文芸ラウンジではゼミ雑誌や実習誌の展示・配布も行っています。ご来場をお待ちしております。



# パン キャンパス!

## 公開! 生放送!

スタジオ見学、模擬授業、進学相談、学科ガイダンス。盛り沢山のコーナーを用意しました。放送学科スタッフ全員生出演でお待ちしています。



# S

EISHUN の君たちへ

## 楽しみ、楽しませる

佐藤宏幸 ○ 映画学科 平成14年度卒



**元** 来、自分には芸術的な素養も、何かを表現したいという強い衝動も特に持ちあわせていないかった。せいぜいお遊びで映画を撮ったことがあると映画が好きというぐらいの甘い考え方で日藝を受験、進学してしまったのである。そんなスタンスなものだから、大学での本格的な映画づくりの勉強にはなかなか苦労した。卒業後はアニメーションの道へ。現在はその業界で映画監督や演出を務めるようになっている。

正直、未だに創作するというのは苦手である。とにかく悩み。一向に答えが出ずなかなか進まない。この世界は向いてないのではないか、辞めようかと何度も思った。しかし自分の手がけた作品が世に発信されて、たくさんの人たちに見てもらえるという充実感を味わったらなかなか辞められない。学生時代とプロとなった今での大きな違いはやはりそこである。自分が担当していた作品の平均視聴率は約10%、170万世帯以上で視聴されているということだ。その人達をいかに楽しませるか。そして、さらにより多くの人達に楽しんでもらうためにはどうするべきか。このことが大きな指針となり、創作するまでの悩みを打破する唯一の武器となっている。まあ作り手としては非常に当たり前のことなのだが、学生時代は、自分の作品に触れてくれる人達を意識するということをかなり疎かにしていたと思う。当時は仲間内でバカ笑いしながら内輪受けの自主制作映画（と呼べるレベルですらない）を撮って、ネットで人気がありそうな動画のタイトルに捏造して配信したり（例えば有名アーティストのPVなどを検索して見ようすると、突然我々の意味不明な映画が再生される）と、完全に悪ふざけと自己満足の世界で楽しんでいた。とはいっても、このときの作る楽しみを知ったことが大きな糧となり、稚拙な自分を省みられるからこそ、さらに視野を広げ多くの人々を楽しませたいと思えるようになったのも確かである。

皆さんには、ぜひともたくさん好きなこと無茶なことをやって楽しい学生生活を送り、アーティストやクリエイターに関係なく、一人の人間として多くの人達に喜びや感動を与えられるエンターテイナーになっていただきたい。そうすれば世の中にもっと幸せが広がるでしょう。

## 情報を得るということ

山本守和 ○ 一般教育 准教授



**東** 日本大震災から1年たった今年の春、岩手県の被災地に行った。大学の後輩が、岩手県で建築設計事務所を営んでおり、震災後、ボランティアとして被災建物の建築診断を行っていた。そこで彼に頼み、被災状況について詳しく説明してもらいうながら、被災地を車でまわった。いくつかの市町村をまわったが、釜石市内は未だに震災直後のような感じで、建て直してある建物は少なく、使用禁止の赤い張り紙が印象的であった。権利関係の問題などで、なかなか建て直しがすすまないそうだ。次に、町長を含めて多くの役場の方が、津波によって亡くなった大槌町役場跡を訪れた。海から役場は近いと言われているが、実際に役場跡に立ってみると、印象としては海からはかなり離れている。直線距離で約300メートルだそうだが、震災前には海と役場の間に建物があったと思われ、役場から海を直接見ることはできなかったと思う。海沿いには、無残に破壊された巨大な堤防が残っていた。堤防に近づいて見上げると、かなりの高さで、どんな津波も防げるような印象を受ける。津波による被害状況は、当時、様々なメディアで報道された。「高台にすぐに逃げれば」と感じた人もいると思う。私もそう思っていた。しかし、現場に行き自分の目で現場の状況を見ると、普通の感覚だったら逃げないとと思う。訪れた時点で大槌町は、仮設の建物しか建築が認められていない状況であった。そのため目立った建物は少なく、積み上げられたいつもの瓦礫の山と、被災を免れた高台の墓地が印象的であった。

情報は、TV、新聞、インターネットなど、簡単に手に入れることができる。しかし、提供される情報は、情報を発信する人が取捨選択したものであり、様々な視点や全てを網羅している情報ではない。今、メディアの中では震災復興という言葉がよく使われているように思われる。しかし、被災地の現場を見る限り、メディアが提供している情報というものが、ある一部の限定的なものにすぎないということがわかる。現場にいかないと得ることができない情報というものもある。学生のみなさんも、興味がある事は、現場に行ったほうがよい。そこでは、マウスをクリックするだけでは得られない情報を、得ることができると思う。

## 真実であって欲しいこと

上滝徹也 ○ 放送学科 教授



**昨** 年の暮れ、日芸OBの市川森一さんが亡くなられた。「傷だらけの天使」（1974年）や「寂しいのはお前だけじゃない」（1983年）等々、テレビドラマ史に残る名作を数々手がけられた脚本家である。芸術論的な言い方をすれば、虚実皮膜の間にドラマを紡ぐことの巧い人で、若い頃にはその嘘のもつアリティにうれしくはまったものだ。

また、これがテレビドラマのもつ真の時代性というものだが、青春ドラマ「傷だらけの天使」の最終話“祭りのあとにさすらいの日々”は、3.11後の政治不在を思うとあまりにも衝撃的だ。

冒頭、突然の大地震がドラマを襲う。そして、崩壊を免れたビルの屋上で、探偵事務所の女ボス・綾部（岸田今日子）が呆然としてつぶやく。

「もう、日本はダメよ」

その後、綾部は海外に逃れ、彼女の危ない仕事を請け負ってきた傷だらけのヒロ一・修（萩原健一）は、相棒の亨（水谷豊）を失いぼろぼろになってごみだらけの夢の島を彷徨う。38年前の連続ドラマである。それが今に続く絶望の深さをこれほどに擊っていたとは。何度見ても、その先見性に驚かされる。

で、ここからが本題なのだが、その市川さんを顧みるシンポジウムのことだ。ある演出家の方がこんな市川論を披露してくれた。

「市川さんは、『真実』ではなく『真実であって欲しいこと』を語っていたのではないでしょうか」

そうなのだ。「若者は奔放にその夢と妄想に生きて欲しい」という思いがなければ、この修たちに見る現世への絶望は描けない。少なくとも表現に関わる者たちは、「常識」というフレームが準備する真実などではなく、こうした「真実であって欲しいこと」を心の底にもつべきではないのか。

私自身を顧みても、若い頃にはそんな思いに駆られて随分と無茶をした。それがいつの間にか「常識という名の真実」に絡めとられて、安穏な日々に胡坐をかくようになってしまっている。経験者だから言える。努力（ゆめゆめ）、油断召されるな！

## 所沢学生課の“おじさん”より

立石重美 ○ 所沢校舎学生課長



こ所沢校舎では、新入生を迎えた頃には各種の桜が咲き誇り、これに今年は菜の花がアクセントを付け加えていましたが、ゴールデンウイーク明けには、ケヤキの葉が一斉に芽吹き、クスノキの葉の密度も一層高まり、今後は、日差しを遮るグリーンパラソルの役目を果たしてくれそうですし、今夏の節電対策の主役にもなってくれそうです。

ちなみに、クスノキは芸術学部創設90周年の記念として江古田校舎にも植樹されました。これはクスノキが常緑樹で枝張りが良い木のため、芸術学部も同様に力強く発展してほしいとの願いからだそうです。また、ケヤキは大木になり日陰をつくることに加え樹形が美しいこともあります。街路樹などとして植えられることが多い、所沢校舎にもバス停を囲むように、また、校舎に沿って相当数が植えられています。埼玉県にはケヤキをシンボルに指定している地域が多く、国道463号の所沢、浦和間には17キロメートルにわたるケヤキ並木があり、これは日本最長のケヤキ並木といわれています。

さて、現在は、みなさんはどのような生活を送っているのでしょうか。新入生はそれぞれ目標や希望を抱いて入学してきたはずですし、在学生も新学期を迎えて新たな思いを抱いたはずですが、ともすればこの時期は新しい環境にも慣れ一息つく頃でもありますので、惰性で過ごしているということはないでしょうか。慣れは感覚を麻痺させるものです。せっかく難関を突破して「日藝」に入学したのですから、勉学はもとよりサークル活動にも積極的に参加するなど、有意義な学生生活を過ごしてもらいたいと思います。

また、今後学生生活を送るなかで、これまで以上の様々な試練が降りかかると思います。冒頭に述べました所沢校舎のクスノキとケヤキですが、両木とも20年を超す風雪に耐えて現在のように成長してきたわけです。みなさんもこの両木と同様に、日々「日藝」という肥沃な大地からさまざまな養分を吸収し十分に蓄え、これを糧に風雪に乗り越えて力強く成長していくことを心より期待しています。

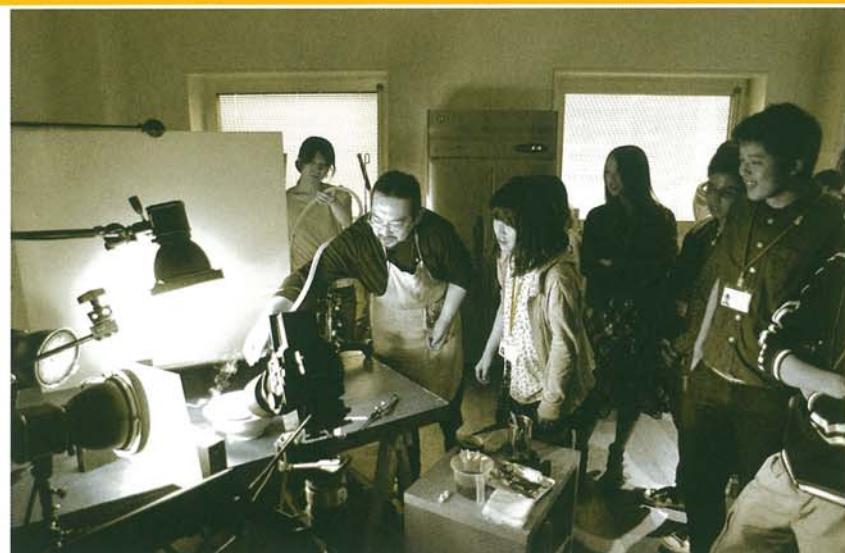
# 1つのハート

## 冠講座『アマナ プロフェッショナル講座』開講

—産学連携によるプロ・現場・実学を実践：写真特別講座VII（他学科公開科目）—

広告ビジュアル制作大手のアマナホールディングス及び関連各社による、新規冠講座が4月より開講されました。広告制作の実務者であるクリエーターを毎回講師としてお招きし、教室での作品紹介（現場事例）やグループワーク、写真学科大スタジオでの撮影デモンストレーションと撮影実習、さらには校外授業としてキッチン設備が完備されたアマナスタジオや、CG制作会社を訪問し撮影の真髄を見る、といった今までにない実務に則した講義・演習を行っています。また試みとしてSNS（講座専用フェイスブック開設）を利用して事務的連絡から講義に対する事前レクチャーや質疑も行っています、さらにはすべての授業を映像記録し配信（現時点で受講者のみの閲覧）し授業の振り返りや就職活動等による欠席時の授業補完としています。

講師としては、CEO・プロデューサー・クリエイティブディレクター・フォトグラファー・CGディレクターにお願いし、日芸OBの方も多く授業アシストとして参画いただいている、学生にとっては将来の自分の姿として映っているかと思います。広告ビジュアル制作における最新のプロセスとスキルを学び、伝わるビジュアルの発想法・表現方法の体感取得を狙いとしており、他学科公開科目として写真学科生以外の他学科学生にも、表現者としての発想法など好評を得ています。産学連携による新しい取り組みにご期待下さい。



写真学科教授 浅井 譲



## 未来を切り開くために

昨今は景気低迷に伴う就職氷河期の再来と言われており、企業に就職するにあたっては厳しい状況が続いています。この状況に対して、本学部では新年度早々から3年生を対象とした就職ガイダンスをスタートさせるなど、就職活動支援の充実を図っています。5月から12月にかけて、学外から専門家を招いての就職指導講座や、企業人事担当者・クリエーターによる業界セミナーなどを開催し、就活力の向上や業界・企業情報の提供に力を注いでいます。また、所沢校舎での1・2年生対象の「キャリアガイダンス」も学外から講師を招き、低学年のうちから「職」に「就く」意識を高めることで自らの進路を考える機会を設けています。さらに、キャリア形成や多様化する就職活動に対応するために、就職指導課にキャリアカウンセラーの資格を持つスタッフを配属するなど、様々な就職活動の相談にも対応できるよう充実を図っています。

### 平成24年度後期 就職指導講座日程表

#### 【3年生対象】

講座名	期日	教室	内容
履歴書・エントリーシートの書き方	10/5(金) 10/10(水)		選考を通過するための履歴書・エントリーシートの書き方を具体的に解説（講師：リクルート）
筆記試験対策講座I【SPI編】	10/16(火)		SPI2の対策を解説（講師：SPIノートの会）
筆記試験対策講座II【一般常識編】	10/23(火)		一般常識の対策を解説（講師：インテリジェンス）
業界対策講座 マスコミI【基礎】	10/2(火)		本学部学生が多く希望するマスコミ業界に焦点をあて、ゲストを招いて業界の細部を解説（講師：唐沢明【唐沢企画】ほか）
業界対策講座 マスコミII【放送】	10/15(月)		就職活動の一般的な服装・身だしなみを解説（講師：JVコミュニケーションズ、コナカ）
業界対策講座 マスコミIII【出版】	11/13(火)		就職活動の一般的なメイク・ヘアメイクを実演（講師：芝直紀【WATS】）
就職活動の身だしなみ講座	10/22(月)		就職活動の一般的なメイク・ヘアメイクを実演（講師：芝直紀【WATS】）
女子学生のためのメイク講座	10/26(金)		就職活動における言葉遣いや社会人とのコミュニケーションを解説（講師：赤津弘子【赤坂スピーチ・クリニック】）
社会人との接し方I【基礎編】	11/16(金)		面接講座I【基礎】
社会人との接し方II【実践編】	11/21(水)		面接のための基礎知識と模擬練習で実力アップを図る（講師：マイナビ）
面接講座I【基礎】	11/27(火)		ポートフォリオ（作品集）の作成手順・方法などの応用講座（講師：イマジカデジタルスケープ）
面接講座II【模擬面接】	12/3(月)		
ポートフォリオの作り方II【応用編】	12/7(金)		

#### 【2年生対象】

講座名	期日	教室	内容
キャリアガイダンスII-3	10/19(金)	所沢 12番教室	・就職活動直前にすべきこと ・自己分析・業界研究など（講師：インテリジェンス）
キャリアガイダンスII-4	11/19(月)		

#### 【1年生対象】

講座名	期日	教室	内容
キャリアガイダンスI-3	10/12(金)	所沢 12番教室	「自分史でわかる私のキャリアデザイン」「業界の話：ゲーム／アニメ／CG・映像（VFX）（講師：イマジカデジタルスケープ）」
キャリアガイダンスI-4	11/12(月)		「本気になるれる仕事の発見法を伝授！」「業界の話：プロダクトデザイン／写真（講師：イマジカデジタルスケープ）」

学生の皆さんのが進路について考える時、就職関係講座・セミナーに参加するだけでなく、積極的に指導教員や就職指導課のスタッフに相談し、明るい未来に向かって頑張ってください。

就職指導課



3年生に配布している進路ガイドブック



就職指導講座風景

### 平成23年度学部卒業者の主な就職先（平成24年3月31日現在）

学科	就職先
写真学科	資生堂、電通クリエイティブX、博報堂プロダクツ③、日テレ・テクニカル・リソーシズ、ロフト、クリーク・アンド・リバー社、レック、たばこ、光文社サービス②、菱プロモーション、オムニバス・ジャパン、六本木スタジオ③、大黒屋、弘前公益社、瀬古写真、オリバス、ペイクルーズ、らかんスタジオ、フォトワークス、*栃木県教員、東京女子医科大学病院（写真技師）、他
映画学科	TBSテレビ、東北新社、ユニオン映画、ギャガ、日テレベンツ、ティ・ワイ・オー②、イマジカデジタルスケープ⑥、オスカープロモーション、アマナ、プロダクション・アイジー②、ワコール、サントリー・パブリシティサービス、ギャップジャパン、キタムラ、日立製作所、A-1 Pictures②、クリーク・アンド・リバー社、テレビマンユニオン、ジェットスタジオ、テクニコ、クレイジー・ティプイ②、*兵庫県教員、他
美術学科	コナミデジタルエンタテインメント、東映アニメーション、サマンサタバサジャパンリミテッド、チヨダ、エーピーシー・マート、フォーク、大野ゴム工業、ユース、マッドハウス、スタジオワイエス、*埼玉県教員、東京都教員、*神奈川県教員、他
音楽学科	ヤマハ音楽振興会②、河合楽器製作所、島村楽器、常陽銀行、グラムマルシェ、サマダイグループ、ゾフ、アンビシャス、ベンチャーバンク、舞浜コーポレーション、ランチェスター、アキナジスタ、ルナ音楽スクール、*群馬県教員、*埼玉県教員、千葉県教員、*東京都教員、*神奈川県教員、防衛省陸上自衛隊（音楽隊）、他
文芸学科	バンダイ、花王、三菱鉛筆、中外製薬、ガリバーアンターナショナル、カルチュア・コンピニエンス・クラブ、図書印刷、リブレ出版、宮脇書店、亨有堂印刷所、西友、東都クリエート、シンプレクス・ホールディングス、パナソニック電工ホームエンジニアリング、ヤマト運輸、栄光、千鳥屋本店、ホビージャパン、*西武学園文理小学校（教員）、日本大学（職員）他
演劇学科	東日本旅客鉄道、東宝、松竹、日テレアクション、サンライズ、ラウンドワン、日本レストランエンタプライズ、ノジマ、エービーユー、バンケット・プランニング、タカティー、エニー、ブロンコビリー、劇団俳優座、ガニックス、日本アニメーション、谷桃子バレエ団、タマオキモヒダンスクール、埼玉県芸術文化振興財団、他
放送学科	東北新社②、日テレ・テクニカル・リソーシズ、アイビーシー岩手放送、山陰中央テレビジョン放送、アイ・ヴィ・エス・テレビ制作、フジライティング・アンド・テクノロジイ、ADKアーツ②、電通テック②、泉放送制作、エキサイト、モランボン、ハーレキン、ファイブ・フォックス、劇団ひまわり、太陽企画、ブライダル・プロデュース、サウンドマン、ヴァンドームヤマダ、ホールマン③、ティ・ワイ・オー②、日企、貞静学園短期大学（職員）、埼玉県警察、他
デザイン学科	電通、電通東日本、マッキンゼンアンドコーソン、サイバーエージェント、任天堂、カヤック、アートブレスト、本田技術研究所、ニコム、バイオニア、ライオン事務器②、カトージ、河津、大和ハウス工業、入江三宅設計事務所、アイダ設計、富士通デザイン、日立製作所、アドブレーン、エレコム、デザインアートセンター、他

○内数は就職者数 \*は非常勤・代理教員・常勤講師等

**写真学科****◎冠講座「アマナプロフェッショナル講座」開催中**

4月より新規開講授業「アマナプロフェッショナル講座」、プロフェッショナルクリエーターを毎回お招きし、現場実務を事例に講座を開催、他学科公開科目として参画の他学科学生にも好評を得ています。

**◎気鋭学生写真展ニコンサロンにて開催**

「出て来い新人」日本大学芸術学部写真学科気鋭学生写真展として選抜された10名の学生による作品展が、6月26日～7月2日まで、ニコンサロンbis新宿で開催されました。

**◎JPS展(公益社団法人日本写真家協会)入選**

八木元春さん(1年)・大崎 慧さん(2年)が入選しました。

**◎東レ(株)との産学連携プロジェクト写真展**

小野真太郎さん・大嶋千尋さん(4年)が撮影した2012年東レ水着キャンペーンで、モデル北山詩織さんの等身大に近い作品展示中。江古田校舎東棟1Fホールにて7月22日まで。

**◎平成23年度卒業・修了制作優秀作品展**

平成23年度の卒業・修了制作の中から選ばれた10名の優秀作品が、江古田校舎東棟写真ギャラリーで5月から12月にかけて順次展示されます、是非お越しください。

**◎写真甲子園2012・東川フォトフェスティバル**

本年も7月21日～29日に開催される「第19回全国高等学校写真選手権大会」及び第28回東川町国際写真フェスティバルを写真学科教員がサポートし、撮影指導や作品レビューを行います。

**◎夏休み・休日開催ワークショップなど**

夏休みや休日に開催される以下のワークショップや研修会にて、写真学科の教員・スタッフが指導を行います。

**○高校生のためのワークショップ**

銀塩写真コース中級・上級・デジタル写真コース

7月21日、22日 江古田校舎

○茨城県高等学校文化連盟写真部会 生徒撮影研修会

7月31日 つくば

○埼玉県高等学校文化連盟写真専門部 初心者研修会

8月2日 所沢校舎

○埼玉県立芸術総合高等学校 学外学修

8月20日～23日 江古田校舎

○茨城県高等学校文化連盟写真部会 顧問研修会

デジタル写真ベーシックコース／アドバンスコース

8月24日、25日 江古田校舎

○読売新聞モノクロ暗室教室

8月26日 江古田校舎

○千葉県高等学校写真連盟写真専門部 生徒撮影研修会

10月4日(日本大学創立記念日) 江古田校舎

**◎秋のオリジナルプリント展開催**

第一線で活躍中の写真学科卒業生のオリジナルプリント展「フォトグラフィティ2」が、江古田校舎芸術資料館において10月23日から開催されます。

**映画学科****◎JPPA AWARDS 2012に学生及び卒業生が入賞**

一般社団法人日本ポストプロダクション協会(JPPA)が主催する、第16回JPPA AWARDS 2012の入賞者が発表され、学生部門において本学部学生及び卒業生が以下のとおり入賞しました。

**○JPPA AWARDS 2012 学生音響技術部門(ドラマ)**

奨励賞「最後の決闘」(映画技術Ⅱ) 神余俊輔(4年)

**○JPPA AWARDS 2012 学生映像技術部門(その他)**

奨励賞『広がる光』(卒業制作) 村田圭佑(H24卒)

**◎平成22年度卒業制作が国際学生映画祭にノミネート**

イスラエルで6月2日～9日の日程で開催されている、第14回テルアビブ大学国際学生映画祭インターナショナルコンペティションに、平成22年度卒業制作「偶像讃歌」がノミネートされました。

**美術学科****◎各種展覧会のお知らせ****○富井大裕ワークショップ:**

「3つのかんけい もの・おと・からだ」

6月23日、7月21日、8月4日 練馬区立美術館(東京)  
http://www.city.nerima.tokyo.jp/manabu/bunka/museum/kyouikuhukyu/event/yotei/kankei12.html

富井大裕助教

**○N+H展 「触れる一感覚のレッスン」**

6月28日～7月8日 練馬区立美術館

http://www.city.nerima.tokyo.jp/manabu/bunka/museum/ 高橋幸次教授、鞍掛純一教授、内山翔二郎助手、剣持和夫講師

**○内山翔二郎個展 「after the rain」**

6月30日～7月22日 Plaza Gallery

http://www.plaza-gallery.com/ 内山翔二郎助手

**○グループ展「開港都市にいがた 水と土の芸術祭」**

7月14日～12月24日 新潟市(新潟)

http://www.mizu-tsuchi.jp/ 富井大裕助教

**○鞍掛純一展「かたちを生む方法」**

7月17日～8月4日 江古田校舎A&Dギャラリー他

鞍掛純一教授

**○大地の芸術祭 越後妻有アートリエンナーレ2012 「やまのうえした」**

7月29日～9月17日

越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)

facebook「日影彫刻」http://www.echigo-tsumari.jp/

鞍掛純一教授+彫刻コース有志

**○「モノの変奏」**

8月3日～9月30日 星と森の詩美術館(新潟・十日町市)

http://www.neptune.jstar.ne.jp/~hosimori/

鞍掛純一教授、富井大裕助教、内山翔二郎助手、小池一馬(H15卒)、飯田竜太(H16卒)

**○富井大裕ワークショップ**

8月12日 新潟市美術館(新潟)

8月25日、26日 江戸東京たてもの園(東京)

http://tatemonoen.jp/ 富井大裕助教

**○芸大絵画×日影彫刻(仮題)芸大OJUN研との展覧会**

10月15日～25日 TURNER GALLERY

http://www.turner.co.jp/gallery/

鞍掛純一教授、富井大裕助教、内山翔二郎助手、倉岡良太(院2年)、船橋みゆ(院1年)、豊島鉄也(4年)、寺田藍(3年)

**○富井大裕個展**

10月18日～11月3日 switchpoint(東京)

http://www.switch-point.com/ 富井大裕助教

**音楽学科****◎演奏会のお知らせ****○第41回サマーコンサート**

7月26日～28日 江古田校舎小ホール

**○第107回定期演奏会**

10月12日 練馬文化センター小ホール

**○第43回オペラ公演会**

10月17日 練馬文化センター小ホール

**○第108回定期演奏会**

10月22日 練馬文化センター大ホール

**○第48回室内楽の夕べ**

11月7日 練馬文化センター小ホール

**○第40回ファカルティコンサート**

11月10日 江古田校舎小ホール

**○第24回ウインドオーケストラ定期演奏会**

11月20日 練馬文化センター大ホール

**○第41回ピアノコンサート**

11月26日 練馬文化センター小ホール

**○第32回新作室内楽の会**

12月16日 江古田校舎小ホール

**文芸学科****◎文学フリマに参加**

5月6日に東京流通センターで開催された「第14回文学フリマ」に参加し、平成23年度に発行されたゼミ雑誌を中心に展示・頒布を行いました。また「江古田文学」の販売も行い、品切れの号が出るなど大変好評でした。

**◎セミ雑誌のための展示会開催**

5月28日～6月8日まで、江古田校舎ギャラリー棟において「ゼミ雑誌のための展示会」を開催しました。平成23年度に発行されたゼミ雑誌・実習誌を中心とし、各ゼミの展示・頒布を行い、開催期間中、6月3日に江古田校舎で行われた進学フェアを含め、多数の来場者を迎えることができました。

**◎平成23年度高橋ゼミナール3年生が制作したiPhone用アプリケーション「オノマトペ」がリリース**

高橋ゼミナールでは昨年からゼミ

毎に制作しているゼミ雑誌を、電子メ

ディアを学ぶ一環としてiPhoneアプリ

いう媒体で作ることに挑戦してきました。

3年目となった平成23年度は擬音

語、擬態語を可視化してみようという

コンセプトのもとで制作され、日本語

の新しい観点に着目した、教育的で

ユーモラスなアプリケーションに仕上がりました。ぜひイン

ストールをお願いします。

以下のURLもしくはAppleStoreでダウンロード出来ます。

http://itunes.apple.com/jp/app/onomatope/id515154812?mt=8

**◎電子文芸誌「月刊アレ!」に文芸学科生4名が参加**

電子文芸誌「月刊アレ!」6月号の第1回「大学対抗S-1グランプリ」に文芸学科生の作品が掲載されます。

掲載されるのは以下の4名です。

杉山紗綾(3年、第10回江古田文学賞受賞)

加藤 澄(3年)

熊井俊介(3年)

高橋由衣(H23年度文芸学科卒、第4回金のたまご文学賞受賞作品一挙掲載)

**演劇学科**

演劇学科では、今年度も様々な実習、また卒業制作の発表を行います。江古田校舎北棟中ホール・小ホール、所沢校舎アートセンター・ブラックボックス。これら3つの劇場は演劇学科を最もおわかりいただける空間となっております。ぜひ足をお運びいただき、日頃の成果をご覧ください。

お待ちしております。

公演日程は以下のとおりです。

○舞台総合実習III C(日舞) 「大和楽『江戸風流』」

「創作『しあい花～湯女団より～』」 創舞指導: 花柳 基

7月7日 江古田校舎北棟中ホール

○舞台総合実習IA(演劇) 「月の岬」

作: 松田正隆 演出: 桐山知也

7月12日～14日

所沢校舎アートセンター・ブラックボックス

○卒業制作中間(日舞) 「コントラスト」

創舞指導: 花柳昌太朗

7月21日 江古田校舎北棟中ホール

○舞台総合実習IB(演劇) 「僕の東京日記」

作: 永井 愛 演出: 鶴澤秀行

8月2日～4日 所沢校舎